

■ 問 1 社会的アプローチによる介護予防

【出題の意図】

本問は、受験生が

- 介護予防を「個人の努力」の問題としてではなく、**社会的決定要因・地域環境の問題として構造的に理解しているか**
- それを**地域福祉政策・地域づくりにどう具体化する**かまで論理的に展開できるか

を評価することを目的としている。単なるスローガンの「地域づくり論」ではなく、**従来型介護予防の限界→理論転換→政策・実践への接続**という構造的な理解を問う。

【模範解答】

日本の介護予防政策は、これまで運動、栄養、口腔機能といった生活習慣の改善を中心に、主として個人の行動変容に働きかける形で展開されてきた。しかし、このようなアプローチには限界がある。第一に、健康状態や要介護リスクは個人の努力だけで決まるものではなく、所得、学歴、居住環境、人間関係といった社会経済的条件によって大きく左右される点が十分に考慮されてこなかった。第二に、この枠組みは健康問題を自己責任化しやすく、支援を必要とする人々を周縁化する危険性を内包している。

これに対し、近藤克則らによる JAGES に代表される社会疫学研究は、健康や要介護リスクの背景に「社会的決定要因」が存在することを実証的に明らかにしてきた。たとえば、地域の人とのつながりが豊かな地域ほど要介護認定率が低いこと、社会参加の機会が多い高齢者ほど健康状態が良好であることなどが示されている。ここから導かれるのは、介護予防を「個人の努力」に還元するのではなく、「人と人がつながり、参加できる社会環境を整えること」そのものが介護予防になる、という考え方である。

この社会的アプローチによる介護予防は、従来のハイリスクアプローチ中心の予防から、地域全体の環境を改善するポピュレーションアプローチへの転換を意味する。すなわち、健康な行動を取りやすい社会、孤立しにくい地域構造、役割と参加の機会が保障された社会関係をいかに構築するかが政策の中核となる。

これを地域福祉政策として具体化するには、第一に、通いの場やサロン活動、住民主体の地域活動への支援を通じて、自然に社会参加が生まれる基盤を整備することが重要である。第二に、福祉部局だけでなく、都市計画、住宅、交通政策などと連携し、「閉じこもらなくて済む生活圏」を形成する視点が不可欠である。第三に、参加しにくい低所得層や独居高齢者に対しては、アウトリーチ型支援を組み込む必要がある。

社会的アプローチによる介護予防とは、単なる健康施策ではなく、地域社会のあり方そのものを問い直す社会政策であると言える。

■ 問2 高齢者の孤独・孤立と政策対応

【出題の意図】

本問は、受験生が

- 高齢者の孤独・孤立を心理問題ではなく社会構造の問題として捉えられているか
- 孤独・孤立と健康悪化・貧困・要介護リスク・社会的排除との関連を理解しているか
- 国の政策（孤独・孤立対策、重層的支援体制等）と地域福祉実践を結びつけて論じられるか

を評価することを目的とする。現象の説明にとどまらず、構造→影響→政策・実践という政策論的思考力を問う。

【模範解答】

日本では高齢化の進展とともに、独居高齢者や高齢夫婦のみ世帯が増加し、高齢者の孤独・孤立が深刻な社会問題となっている。孤独・孤立はしばしば個人の性格や人間関係の問題として理解されがちであるが、その背景には、家族形態の変化、地域社会のつながりの弱体化、雇用・居住構造の変容など、社会的・構造的要因が存在している。

とりわけ、未婚化・単身化の進展や、都市部における流動性の高い居住構造は、日常的な人間関係を形成しにくい条件を生み出している。また、退職によって職業を通じた社会関係を喪失することも、高齢期の孤立を加速させる要因となっている。

高齢者の孤独・孤立は、単なる「寂しさ」の問題にとどまらない。第一に、社会的孤立はうつや認知機能低下、死亡リスクの上昇といった健康問題と密接に関連している。第二に、支援を求める相手がいないことによって、困窮や虐待、セルフネグレクトが深刻化しやすい。第三に、地域社会において問題が「見えなくなる」ことで、制度的支援からも排除される危険性が高まる。つまり、孤独・孤立は社会的排除の中核的なメカニズムの一つなのである。

この問題に対し、国は近年、孤独・孤立対策を社会政策の重要課題として位置づけ、重層的支援体制整備事業などを通じて分野横断的支援体制の構築を進めている。これらの政策の意義は、問題を「属性別」にではなく、「複合的な困難」として捉え、包括的に支援しようとする点にある。

地域福祉の役割としては、第一に、見守りや相談支援を通じて孤立状態にある高齢者を早期に発見すること、第二に、通いの場や居場所づくりを通じて社会参加の回路を再構築すること、第三に、制度につながりにくい人々へのアウトリーチを強化することが重要である。

高齢者の孤独・孤立対策は、単なる福祉サービスの提供ではなく、「つながりを再編成する社会政策」として位置づけられるべき課題なのである。

令和 8 (2026) 年度 社会福祉学研究科 (修士課程) 2 月入試

試験科目名：社会保障論

[出題の意図]

社会保障制度の基本構造を理解できているかを確認するとともに、社会保障が直面する最大の問題である人口高齢化がもたらす影響についての的確に論じることができるかを問う内容とした。

[評価のポイント]

- ・ 医療保険、介護保険、年金保険などに対する人口高齢化の影響がそれぞれの制度の基本構造に即して論じられているか。
- ・ 人口高齢化が給付と負担の両面に及ぼす影響が示されるとともに、それらがもたらす問題が的確に論じられているか。